

日本分類学連合



第12回公開シンポジウム



主催：日本分類学会連合

共催：日本学術会議

協賛：全国農村教育協会，地方都市コンベンション関連団体事務局，東海大学出版会

シンポジウム1

『自然史標本の公的保護をめざして』



Vespa mandarinia



Papilio maackii



Dorcus hopii binodulosus



Cicindela chinensis



Chlorogomphus brunneus brunneus



【日時】2013年1月12日(土) 13:30～17:00

【企画】馬渡駿介(北海道大学)

- 1) 西田治文(中央大学)
「標本被災が顕在化させた自然科学の偏り」
- 2) 栗原祐司(京都国立博物館)
「災害から文化遺産を守るブルーシールドと自然史標本」
- 3) 奥山正樹(環境省生物多様性センター)
「環境省と自然史標本：生物多様性センター所蔵標本の現状」
- 4) 佐久間大輔(大阪市立自然史博物館)
「生きた自然を記録・継承し、守り人を育てる自然史博物館とその標本」
- 5) 松浦啓一(国立科学博物館)
「重要な自然史標本はどこにあるのか：重要標本のメタデータベース作成」

シンポジウム2

『分類学があらためて「種」と向き合うとき』



【日時】2013年1月13日(日) 9:30～12:00

【企画】三中信宏(農環研/東大・院・農生)

- 1) 三中信宏(農環研/東大・院・農生)
「世紀をまたいだ『種』論争は何をもたらすのだろうか：第三の道に向けて」
- 2) 網谷祐一(京大・院・文学研究科)
『種』——定義より遠く離れて」
- 3) 太田英利(兵庫県立大学)
「保全生物学における『種』の功罪」
- 4) コメンテーター：神保宇嗣(国立科学博物館)
「生物多様性情報分野から見た『種』」

Speaking words of wisdom, let it be. Let it be.
will be an answer, let it be. For though it
be. Yeah, there will be an answer.
music, Mother M
f wisdom